

千刈狸の呟き

～ 神 農 ～

もともとABCに弱いこの老狸の耳に、またまた顔を出したのがTPPという三文字だ。環太平洋経済連携協定というらしい。

『積極的に参加し、国際交渉に強いリーダーシップを発揮するのだ』と鰻首相は大見栄を切っていたのだが、農業団体の蕙旗に煽られたのか、鳩ポッポや農民票で食っている狐諸侯の反対で又々鰻振りを発揮し、結論は「翌年への引き延ばし」となり、次に控えていたAPECではカンニングペーパー首脳会談を世界に放映されて、リーダーシップ発揮どころでなくなった。結論を出すその翌年(今年)になった途端「六月には必ず」とまたまた大見栄。その後、内閣の新布陣を決めて『最強の内閣だぞー』と胸を張っていた。でも、沖縄県民の総スカンで普天間基地問題がああ調子なのに、日本列島農民総蕙旗にはどう対処するか見モノである。

TPP不参加となれば他の輸出産業の発展を阻害するのは必須だ。資源不足の日本国民が生きてゆくためにはどうしても「この指と一まれ」には応じなければならないところ。一方の日本の農民にとっては、今こそ、古い日本の農業形態からの脱却を図って若返り、世界の農民と堂々と勝負する又とないチャンス到来なのだが？

TPPがどうのこうの以前に、日本農業は大分前から危機に瀕しており、農政の転換期は少なくとも10～20年前に終えていなければならなかったのに、為政者たちは小手先の農民機嫌取り政策のみで今日に至り、世界競争力の全くない老弱農業にまで疲弊させてしまったのである。今回も又、更なる農民救済の強化で誤魔化し、TPP参加へと進むのであろうが、それでいいのか？お寒い限りである。

ハナシの方向がガラリと変わって申し訳ないが、

「神農(しんのう)」という神様をご存知だろうか？

中国史に於ける神話時代の皇帝(神農大帝)であって、民に「農業」を教え普及させ、栽培した薬草を自らの舌と身で毒性を確認して民に「医」を与えたという農業・医業に共通する神である。世界最古の本「神農本草経」などで名高い。当の中国での現政権は、そんなカミサマ伝説はトックに否定し去っているようだが、日本の民間では各地で「神農さん」と親しまれ、「病気を治してくれる神様」として今でも人気は廃れない。昔は(昭和まで)、殆どの日本の医家は挙って(11月23日に)床の間に神農神の掛け軸を飾り、「薬祖祭」又は「神農祭」と称して神農神(日本の少彦名命や薬師如来も共に祀る医家もあった)を祀っていたものである。「農」は「医」に通ずるという考え方は数千年前の古代からの為政者の基礎常識だったようだ。ここでは人間にとっての「農」と「医」の大事さのみを示すだけでハナシを閉じる(御免！)。

ところで、北欧などの福祉重視国家を別にすれば、世界の自由経済社会国の中で、国家の統制経済下に置かれているのは「農業」と「医業」だけではないのだろうか。この両立しなければならぬ筈の基盤事業が、片や、「世界一美味しいコメ、そして、世界一高価なコメ」、此方、「トップクラスの医療、なのに、先進国中最低の医療費」となっているのだ。コメへの偏りも気になるが、農・医のアンバランスの極りこそが日本の「歪(イビツ)」を象徴しているようで寂しい限りはある。

TPPはサテ措いて、農も医も国家存在の根幹に関わるもの、軽く考えるとタイヘンなことになりますぞ！ 駄羅漢さんたち。

(禿 狸)